

入場無料

日本大学文理学部資料館企画展

伊能図でみる江戸後期の日本の景観 2024



令和6年

9/22 (日)

～10/15 (火)

図書館棟1階

資料館展示ホール

平日 10時～17時

土曜 10時～13時

※日・祝日・10/4〔大学創立記念日〕は休館
ただし、9/22 (日) は、秋季オープンキャンパス
のため、10時～16時での特別開館

京王線桜上水駅・下高井戸駅および
東急世田谷線下高井戸駅より徒歩約8分

伊能中図「関東」(レプリカ) 日本大学文理学部蔵
原本：〔イブ・ペイレ氏旧蔵 (NISSHA株式会社現蔵)〕

主催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

伊能図とは、伊能忠敬の測量隊が1800（寛政12）年～1816（文化13）年にかけて全国を測量し、作製した日本地図の総称であり、一般的には、縮尺の違いによって大図（1/36,000）214枚・中図（1/216,000）8枚・小図（1/432,000）3枚に分類されています。日本大学文理学部は、複製ながら伊能大図と中図の全葉を所蔵する唯一の研究機関となっています。本企画展は、昨（2023・令和5）年度ご好評を得た、日本大学文理学部所蔵伊能大図・中図の企画展「伊能図でみる江戸後期の日本の景観」に一部追加のうえ再展示したものです。

展示する伊能大図は、2001（平成13）年に米国議会図書館で確認された大図「米国議会図書館所蔵伊能大図」（アメリカ伊能大図）を原本として、国土地理院がこれをデジタル複写後、彩色復元したものです。また伊能中図は、1970（昭和45）年頃にフランスで発見されたイブ・ペイレ氏旧所蔵、NISSHA株式会社現所蔵伊能中図（フランス伊能中図）を原本として、デジタル複写されたものです。なお、原本のフランス伊能中図は、完成度が高い副本です（完成度は伊能忠敬記念館所蔵の伊能図と同等以上）。

伊能忠敬の測量は、当時一般的に用いられていた導線法です。これは、海岸線や街道に梵天（目印）を立て、目印間の距離（歩測：第一次測量、間縄、鉄鎖等で計測）と方位（彎窠羅針で目標物が北を基準にどの角度に位置するか計測）を野帳に記録しながら順次進行するという方法です。導線法は、測量の行程に従い進行する開放トラバース測量（測量の起点に戻らない方法）のため誤差が生じやすいのが短所です。そこで伊能忠敬は交会法、天測（天体観測）、見返り測量、傾斜角測量、横切り測量の導入や、測量器具の開発・改良等を進め、誤差の最小化を図りました。これにより、精度の高い地図が完成し、その誤差は緯度1度の長さにして0.2%ほどに過ぎず、伊能図完成後約半世紀を経て来日した英国測量艦隊司令ワード中佐が、当時の最新技術（三角測量）をもってしても、伊能図の精度の高さを認め、本国の海図に用いるほどの水準でした。誤差の補正に最も機能したのが交会法です。この方法は、複数の既知点から同じ目標点（山島等）の方位を測り、その方位線を図上に展開して交わる点（交会点）を求めて誤りを正すというものです。また南北の位置補正には天測が有効で、☆印で観測地が記されています。



伊能中図「関東」（部分） 日本大学文理学部所蔵
原本：イブ・ペイレ氏旧所蔵、NISSHA株式会社現所蔵伊能中図（フランス中図）レプリカ



令和5年度伊能図展の展示風景

主な展示資料

伊能中図：『伊能中図』〔本学部蔵（複製）、原本：イブ・ペイレ氏旧蔵、NISSHA株式会社（旧日本写真印刷株式会社）現蔵〕

「蝦夷東半」「蝦夷西半」「北海道」「東北」「関東」
「中部近畿」「中国四国」「九州北半」「九州南半」

伊能大図：『伊能大図（米国）彩色図』〔本学部蔵（複製）、原本：米国議会図書館蔵〕

「陸奥 大槌 気仙沼」「大坂 尼崎」など

日本大学文理学部資料館

Nihon University College of Humanities & Sciences MUSEUM

東京都世田谷区桜上水3-25-40 TEL 03-5317-8590

<https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/>